

受賞：

- 公益財団法人 小児医学研究振興財団 平成 23 年度イーライリリーアワード 受賞 (2012 年 4 月)
- 日本小児神経学会 第 30 回優秀論文賞 受賞 (2012 年 5 月)

対象論文：

Kita Y, Gunji A, Inoue Y, Goto T, Sakihara K, Kaga M, Inagaki M, Hosokawa T.
Self-face recognition in children with autism spectrum disorders: A near-infrared spectroscopy study.
Brain & Development 2011; 33: 494-503.

内容：

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorders: ASD) のある子どもは、人とのコミュニケーションや関係づくりなど、社会性の側面につまづきを示すことがあります。私たちは、社会性の発達を支える基本的な能力の自己認知 (自分と他人とを識別し、自分だとわかること) に着目し、特に顔刺激を用いた自己顔認知 (自分の顔と判断する認知) について、ASD 児の脳の働きを近赤外線スペクトロスコピー (Near Infrared Spectroscopy: NIRS) を用いて検討しました。

定型発達成人などでは、自分の顔を認知している際、右下前頭回近傍領域に脳活動の増大が認められますが、ASD 児では同領域の活動が低下していました。また、この領域の活動は、ASD 児の臨床症状や特定の心理状態と関連していました。すなわち、障害の重症度が重いほど、活動の低下が認められました。それと同時に、他人の視点から自分を意識する傾向が強いほど、活動の増加が認められました。

これらのことから、ASD の社会性の困難の背景には、自己認知に関わる右下前頭回の機能障害があり、同領域の障害の程度が、障害のスペクトラム症状に関与していると示唆されました。また、心理状態との関連も認められたことから、今後の介入や支援方略を考える上でも有用な知見と考えられました。今後は、本研究の結果を発展させ、評価や支援方法の開発につなげたいと考えております。